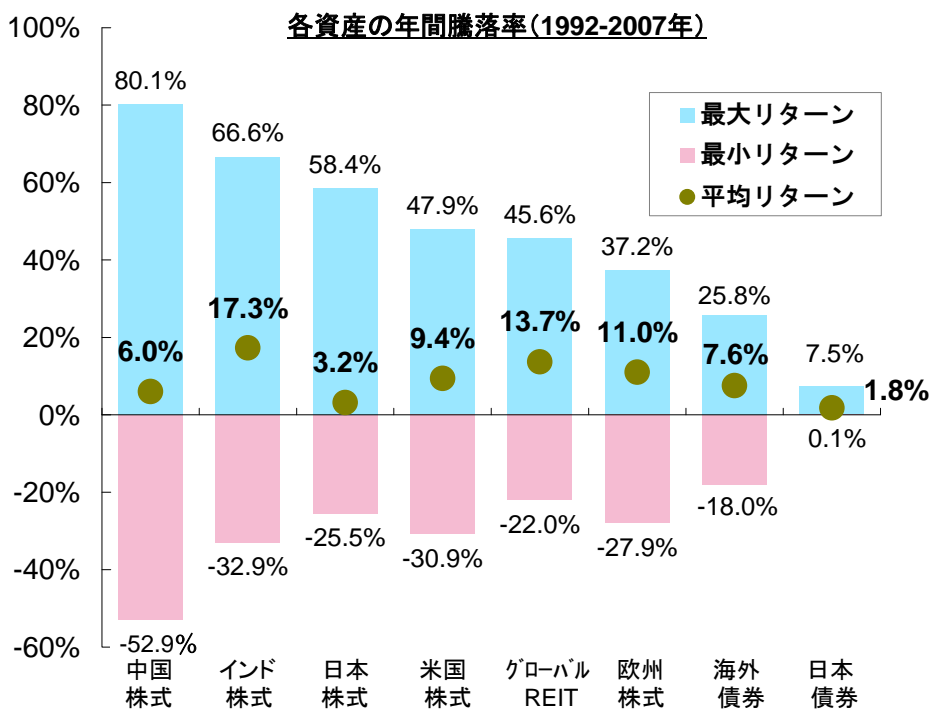


今だからこそ再確認してみませんか？資産分散投資

資産形成において、資産分散投資が日本でもだいぶ浸透してきました。
しかし、広がる投資機会を追い求めているうちに、資産配分のバランスを失ってはいませんか？

■ますます広がる収益機会

株式や債券を活用した資産運用。最近では、新興国地域やREIT(不動産投資信託)など投資対象も多様化してきました。収益性では魅力あるこれらの資産ですが、収益期待が大きくなるほど価格が変動する可能性も大きくなる傾向が見られます。



●ブルームバーグのデータより日興アセットマネジメントが作成。使用インデックスについては、最終頁をご確認ください。

収益性の落とし穴

大きなマイナスになれば、代償も大きい

収益期待の高さに惹かれ、価格変動(リスク)の大きい資産に集中投資した場合、大きな損失が生じる可能性も高くなります。

そして、一度大きなマイナスが出ると、それを取り戻すには、より大きな力が必要となります。

(例) 100万円を投資して20%の損失が生じた場合、▲20万円を帳消しするには、残った80万円に対して25%の上昇が必要

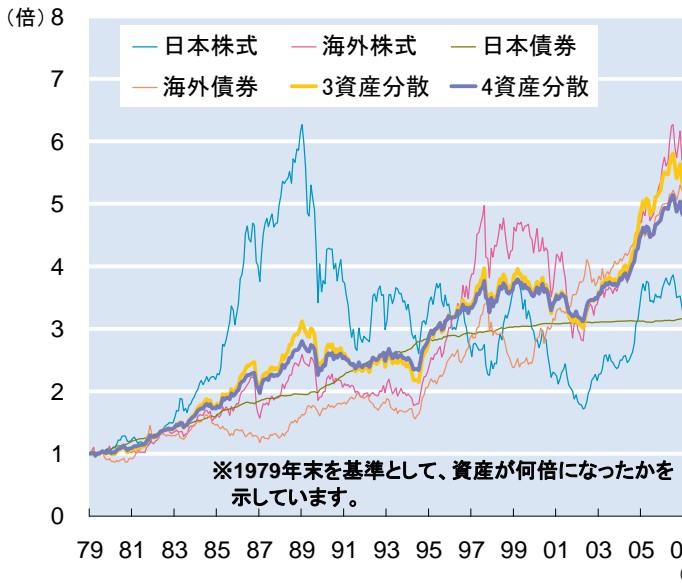
損失	▲10%	▲20%	▲30%
損失を補うために必要な収益力	+11%	+25%	+43%

上記グラフおよびデータは過去のものおよびシミュレーションの結果であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが資産分散投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■リスク軽減は、安定的な収益追求への第一歩

マイナス幅を抑えるだけであれば、リスクの小さい資産を選ぶという方法がありますが、同時に収益性も小さくなってしまいます。中長期的に資産を殖やすためには、リスクを抑えながら、安定的な収益性を確保することが必要です。その点で優れているからこそ、資産分散投資は有効な手段と言われるのです。



値動きの異なる資産に分散投資を行ない、収益性を維持しながらリスクの軽減を狙う



3資産分散

(日本株式+海外株式+海外債券)

平均:6.6% 最大:27.3% 最小:▲18.9%



4資産分散

(日本株式+海外株式+日本債券+海外債券)

平均:6.0% 最大:20.8% 最小:▲12.8%

データ期間:1979年12月末~2007年12月末

3資産分散:日本株式、海外株式、海外債券に均等投資し、年次リバランスをした場合の騰落率

4資産分散:日本株式、海外株式、日本債券、海外債券に均等投資し、年次リバランスをした場合の騰落率

●ブルームバーグのデータより日興アセットマネジメントが作成。使用インデックスについては、最終頁をご確認ください。

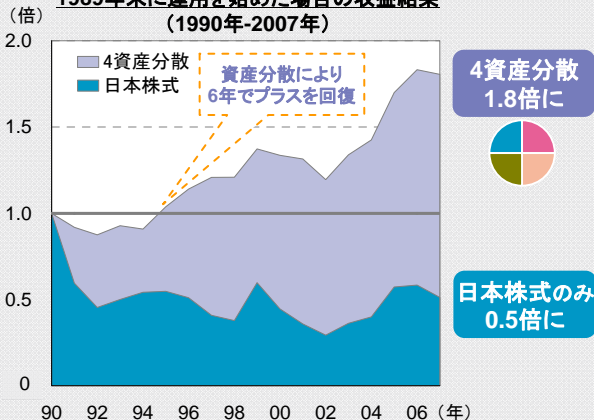
【たとえば、バブル期のピークに投資を始めていたら・・・】

日本株式の最高値は1989年末—

この1989年末に日本株式だけで投資を始めていたら、資産はおよそ半分程度となっていました。しかし、同じタイミングで4資産への分散投資を始めていれば、日本株式の損失を他が補い、資産規模は1.8倍になっていたこととなります。

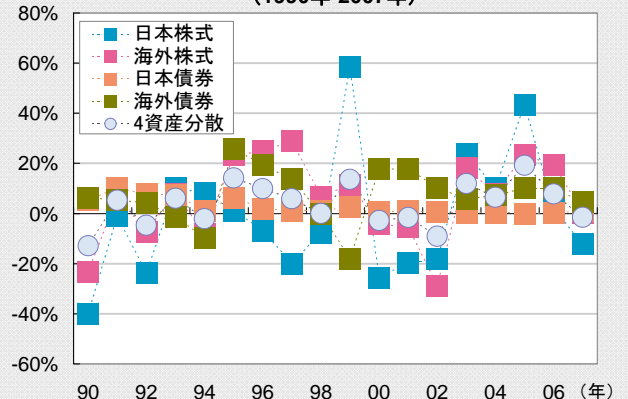
資産分散の効果により、個別資産での損失をカバー

1989年末に運用を始めた場合の収益結果 (1990年-2007年)



日本株式に限らず、どの資産にも大きな価格変動が起こる可能性があります。

各資産の年間騰落率 (1990年-2007年)



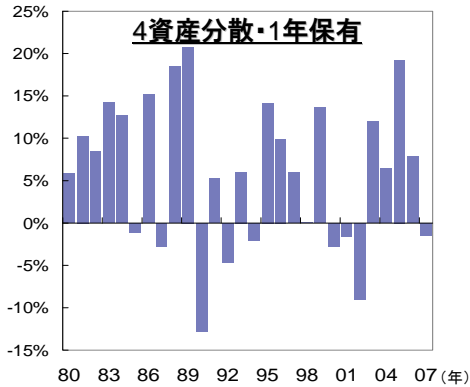
●各資産および4資産分散については、上記と同じものを使用。ブルームバーグのデータより日興アセットマネジメントが作成。

上記グラフおよびデータは過去のものおよびシミュレーションの結果であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが資産分散投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

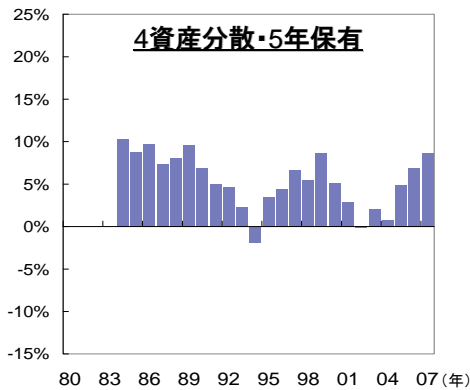
■千里の道も一歩から。時間を味方につける効果は大きい。

とはいえ、資産分散投資はマイナスを出さない万能薬ではありません。
分散投資でリスク軽減を行なったら、さらにその効果を高めるのに必要なのは時間を味方につけること。
資産分散+長期投資で、より安定的な資産形成をめざしましょう。



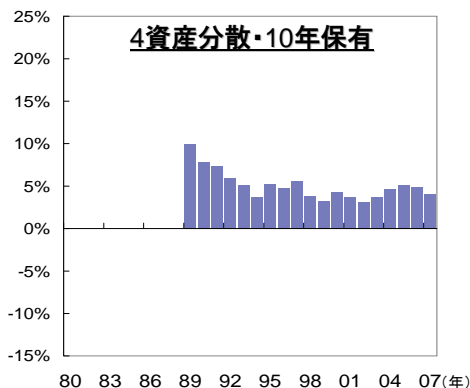
資産分散投資でも
1年保有では、投資時期による変動が大きい

【4資産分散・1年保有】
平均収益率:6.0%
(最大:20.8% 最小:▲12.8%)



5年保有することで、上下の変動幅が大きく軽減

【4資産分散・5年保有】
平均収益率:5.4%
(最大:10.3% 最小:▲1.9%)



10年保有では、すべての期間でプラスに

【4資産分散・10年保有】
平均収益率:5.1%
(最大:10.0% 最小:3.2%)

前頁の4資産分散を行ないながら、1979年末～2007年末において、
1年・5年・10年保有した場合の年間騰落率。

●ブルームバーグのデータより日興アセットマネジメントが作成。

ポートフォリオをもう一度見直してみませんか？

上記グラフおよびデータは過去のものおよびシミュレーションの結果であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

【当資料の使用インデックス】日本株式:東証株価指数(TOPIX)、海外株式:MSCIワールドインデックス(日興アセットマネジメントが円換算)、
海外債券:シティグループ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)、日本債券:日興債券パフォーマンスインデックス(短期総合)。
グローバルREIT:S&P/シティグループワールドREIT指数(配当込み、円ベース)。

中国、インド、欧州の株式はMSCI Inc.の各国指数、米国株式はS&P500。いずれもドルベースのものを日興アセットマネジメントが円換算。

- 当資料は、日興アセットマネジメントが資産分散投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。